



てしまいます。

歴史を学ぶ意味は、日本の成り立ちや世界との関係を知り現代社会で正

しい歴史認識を持って生活できるようにすることではないかと思えます。そう考えると、紀元前や飛鳥時代なんて一時間、奈良から江戸まで数時間、明治からしっかりと勉強すればいいのではないかと思ってしまう。だって実在したかどうかも分からない神武天皇の話で時間をとったり、どこにいたのかもわからない卑弥呼の話って高校時代に学ばなくてもいいですよ。逆に、豊臣の時代も含めて、なぜ外国に出て行ってまで戦わなければならなかったのかという背景だけしっかり理解できればいいのですから。

これは皆さんに共通したことではないと思いますが、高校時代、僕の本史の授業は大正時代で終わってしまいました。何やってたんでしょね。

大学講義の今昔物語

先日、母校の大学で講義をしてきました。まあ、隔世の感があります。30年もたっているのですから当たり前ですけど。

出席確認は自分のスマホを教室の器械に読み込ませること。配布資料は基本的に講義前にアップされているので自分のスマホやタブレットで見るとして授業をやった講師の評価もスマホで入力：今どきの大学ってみんなこんな感じなのでしょうか。

逆に昔を懐かしく思い出しちゃいました。僕たちのころは出席カードという紙が講義の時に配られて、それを回収することで出欠がわかるようになっていました。また、授業はスライド：と言っても「ブルースライド」というものが主で、青地に白抜き文字のスライド。講師の先生が「スライド次」とか言う助手の先生が一枚送るといったものでした。僕が大学卒業直前、若い先生がパソコンから直接プロジェクターにつなぎ、すぐカラフルなスライドで、ちょっとしたアニメーションのような動きをさせただけで教室から歓声が沸きました（その先生、今や教授！）。

ただ、パソコンのプレゼンテーションができたからと言って学生の理解力が上がったかどうかは別問題です。これは昔から変わりません。